

## 家畜ふんたい肥の特性評価システム

平成12年、13年と普及センターより集められた県内家畜ふんたい肥の成分・外観品質や発芽試験結果などの情報をもとに、たい肥を総合的に評価するシステムを開発した。

**家畜ふんたい肥特性評価システム**

外観品質からの評価  
 中熟です。販売目的の場合はさらに堆積するか切り返し等のたい肥処理を行うのが望ましいです。

成分チャート

項目	中心	内枠	外枠
水分(%)	90	50	0
EC(mS/cm)	0.1	4	15
全窒素(%)	0	2	10
C/N比	100	10	1
リン酸(%)	0	1	10
カリ(%)	0	1	10
石灰(%)	0	1	10
苦土(%)	0	1	10

平均値の畜種  
 ● 牛  
 ○ 豚  
 ○ 鶏

※図注の赤線は県内の同畜種たい肥の平均値。  
 ※ECは風乾物での値、その他は現物での値。  
 ※チャートは外側に広がるほど肥料成分が多い傾向を示す。(水分、C/N比は逆目盛)  
 ※内枠の値は施用量によって肥料成分を考慮して使用するかの目安値。

使用上の留意点  
 窒素含量の少ない土づくり的たい肥です。肥料効果はあまり望めません。  
 窒素含量の多いたい肥です。肥料代替としての利用が可能です。  
 ECが高く、発芽・生育生涯の原因になるおそれがあります。施用量に注意が必要です。  
 C/N比が高いので、さらに堆積するか窒素飢餓等に注意して使用する必要があります。  
 さらに堆積するか、施用後2~3週間おいて作付するのが望ましいです。

肥料代替率  
 このたい肥1トンあたりに含まれる有効成分(化学肥料相当)量は以下のとおりです。以下の分量を施用量から差し引くのが望ましいと考えられます。  
 窒素 2.3 kg    リン酸 5.9 kg    カリ 7.2 kg  
 苦土 6.9 kg    石灰 5.0 kg

図1 「家畜ふんたい肥特性評価システム」画面

「家畜ふんたい肥特性評価システム」は、データ入力部(画面左側)とたい肥の特性表示部(画面右側)から構成されている。たい肥生産者の氏名・外観品質の評価得点・成分分析値等を入力することにより以下の特性が評価できる。

外観評価の得点から、たい肥の熟度(完熟・中熟・未熟)を判定する。

たい肥の成分分析値から、養分バランスをグラフ表示する。また、県内の各畜種(牛・豚・鶏)のたい肥の平均値との比較ができる。

外観評価の得点、たい肥の成分分析値から使用上の注意点で該当するものに赤色の印を表示する。

たい肥の成分分析値から、たい肥1トンあたりの有効成分(化学肥料相当)量を算出し、たい肥の化学肥料代替利用の目安を示す。

本システムは、農業改良普及センターで利用可能である。